様式第３号

令和元年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	１（分）	学 校 名	下田高等学校南伊豆分校	校 長 名	齊　藤　　篤

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	**すべてに優先する安心安全な学校作り**	問題行動や生徒間のトラブルに対して、全職員で適切な指導を行う。	今年度生徒指導数は２件。	A	問題行動や生徒間のトラブルに対して、教員間で協力して適切な指導ができた。今後も継続指導に努める。
		登校時や SHR での様子を毎日観察し、全教員で情報を共有し、いじめの防止、早期発見に努め、適切に対応する。登下校時の交通事故を防止する。	交通事故は０件であった。いじめ認定は３学期に１件認定する事象が発生したが、大きな問題に発展しなかった。	B	学年毎、生徒の人間関係上のいざこざはあったが、個別対応など適切に対応し、いじめなど重大な問題に発展することを防ぐことができた。 生徒を観察し、教員間での情報共有の重視、生徒間の言葉遣いの指導強化、交通事故０を継続目標とする。
		教職員の不祥事０件、長期欠席０人を目指す。	教職員の交通事故、不祥事０件。公務災害１件以外の連続欠席者は０人。	A	事故・不祥事０は今後も継続目標。公務災害の原因と判断される問題の対策を行う。
		避難訓練を２回実施する。	12 月と３月に実施できた。	A	訓練の抜き打ち実施、こども園との合同訓練の見直し実施する。
		学校警備・防災計画書の点検・充実を図る。	危機管理課との連携を図り、所在地特性・状況を踏まえた計画書を改訂。	A	関係機関と連携、防災マップ等を確認。実情に合わせた防災計画書を改訂する。
		自助・共助に根ざした防災体制の充実を図る。	抜き打ち訓練の実施、合同訓練に向けて初めて会議を実施した。	A	関係機関と会議を（協議）し、合同避難訓練の見直し実施。防災教育実施で生徒の自助・共助意識の高揚を図る。
		将来的な実習形態（作付け面積等）を見据えた職員による農場整備を実施する。	現状に合わせた作付計画の検討と実施ができた。授業を通して簡易的な農場整備を実施できた。	A	常に農場環境の改善を実施し、美化を意識し除草等の日常管理の徹底を図る。
		実習における GAP 教育を踏まえた定期的な農場整備を実施する。	各学期末に１回の環境整備を実施した。GAP 教育に触れられなかった。	B	GAP 教育の要素を取り入れた日々の実習教育に努める。
		施設設備の不備による事故０件を目指す。施設設備の見回り等を行い常に正常な状態を保つ。	施設設備の不備による事故０件。	A	事故０を目指し、今後も施設設備の見回りを実施し、常に正常な状態を保つよう努める。

様式第３号

		情報セキュリティポリシーを作成し、適切なネットワーク環境の管理を行う。情報流出０件を目指す。	情報セキュリティポリシーを作成した。 情報流出０件であった。	A	作製したセキュリティポリシーを基にネットワーク環境の維持、管理を今後どのように行うかを課題とし取組む。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
イ	**基本的生活習慣を確立させ、自立心を持った生徒を育てる生活指導の充実**	毎朝の登校指導や職員室入室時の指導を中心に、明るい挨拶と、正しい言葉遣いを定着させる。生徒への声掛けを心掛ける。	全体的には登下校時や、職員室を入退室する際の挨拶は定着しつつあるが、言葉遣いには課題が残る。職員室入室時の服装や所持物等の声掛け、注意は意識して実施した。	A	来客者への挨拶や言葉遣いは良くなっていると思われる。 今後さらに、丁寧な声掛けを通じて、対教職員、生徒間での正しい言葉遣いを留意する指導を行う。進路課と連携し、外部講師による話し方講座を実施する。
		人間関係作りに関わる能力向上、コミュニケーション能力向上のため、LHR・行事等の場面で機会の充実と意識付けを図る。そのためのプログラムを LHR 等で年５回以上の実施を目指す。基礎学力定着指導にも活用する。	全学年人間関係作り、コミュニケーション能力向上プログラムを５回以上実施した。HR 活動や学校行事の準備を利用し、生徒が主体的に計画、話し合いする姿勢が伺えた。 対策勉強も含め、基礎学力テストを３回実施した。	A	基礎学力テストの実施により、目標に向かって学習する姿勢を持たせることができた。苦手教科の個別指導等、見直し実施する。昨年に比べ、クラス行事企画の提案が活発になるなど、人間関係作りに係わる能力の向上がみられた。今後は相手を思いやる態度の育成を目標とする。
		学校全体として、言葉遣い、服装・礼節など全般的なモラル・マナーの向上を図る。	職員の声掛けや全校集会でモラル・マナー向上を目的とする講話を行う等の指導で、頭髪・服装・礼節など落着いてきているが、ピアスやカーディガンの色等一部、指導の統一・徹底されない面もあった。	B	今後も言葉遣いや服装指導を継続して行う必要がある。そのために指導基準や声掛けの方法等、職員の個に委ねる部分と統一する部分を明確化する。 マナー指導として、外部講師によるマナー講座を実施する。
		授業を大切にし、学習する習慣を身につけさせ、提出物の期限を尊守させる。長欠・不登校生徒０とし、平成 30 年度比、欠席・遅刻・早退数を（家庭と連携し）減少させ、出席率 98%以上を目指す。	前年比で、欠席、遅刻が増加傾向であったが、長欠・不登校生徒０人、出席率 98.4%を達成。 ２、３年生は、時間を守り授業に臨む姿勢が窺えたが、１年生は授業態度や提出物の点で十分ではなかった。	B	長欠・不登校生徒を出さない指導ができたことは良かった。しかし、人間関係等の問題や生徒指導等により、昨年度比出席率がやや下がったことで、正しい生活習慣と人間関係の確立は重要な課題である。また、集中力や忍耐力を身につける。授業を大切にする。提出物の期限を遵守させる。遅刻早退欠席を減らす指導の工夫に努める。

様式第３号

		図書の紹介等に努め、朝読書や読書会を通し、読書の習慣を身につけさせる。	学級文庫の設置、図書館だより発行により、図書を紹介した。	B	学級文庫と図書館だよりの充実を図る。
		図書室としての機能を向上させ、蔵書数増加に努める。	図書室を整備し、授業等に必要な図書を購入した。	A	生徒の実態に即した図書の購入を検討する。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	**地域の特性を生かし、農業の多面性を活用した学習の展開**	地域機関や人材との密な連携を図り、授業や農業クラブ活動の充実を図る。	地元こども園や小学校、JA をはじめ各機関と密に連携し、充実した農業クラブ活動が実施できた。	A	連携や交流内容を充実させるとともに、負担軽減を見極めた事業や活動の精選も行う。
		来年度の全国大会（静岡）に向けた準備及び県大会における意見・プロジェクトの出場と入賞を目指す。	全区分に出場し、上位入賞の成績を残した。しかし、全国大会の準備はまだまだ課題が多かった。	B	校内の活動を充実させつつ、全国大会静岡大会に向けた準備及び競技力の向上を目指す。
		ESD を踏まえ、充実した授業展開をする。	南伊豆認定こども園、南中小学校との交流を行い、特に科目「生物活用」で ESD を踏まえた充実・発展的授業展開ができた。	A	継続実施及び活動の精選、さらなる充実を図る。
		全教科・科目でシラバスの見直し・確認を年１回以上実施する。進路課と連携し、進路指導を見据えた授業展開に努める。	計画通り実施できたが、学習評価について検討課題がある。	A	授業の方向性を確認するとともに、授業改善に努める。 学習評価について検討する。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	積極的な地域貢献	地域防災訓練への参加率を向上させる。	地域防災参加率 48％で県平均を概ね達成できた。	B	地域防災の担い手となるよう、今後も地域防災参加率向上を目指す。
		インターンシップ、職場見学を通して、地元企業、地場産業への理解を深める。 全生徒が最低一つ主体的な地域貢献活動や地域防災に参加し、積極的貢献の姿勢を涵養する。	地元企業の協力を得て、充実したインターンシップ、職場見学を実施できた。農業クラブ活動、学校祭等、農業の学習を通した活動や、賀茂地域局主催の KAMO マルシェに参加し、充実した地域貢献活動ができた。	A	今後も地元企業との連携を大切にし、インターンシップや職場見学を、生徒の進路実現に繋げたい。今後も日頃の授業を通した地域との繋がりを基に、貢献機会を模索、積極的に参加する姿勢を継続する。分校の魅力化を目指し、地域防災訓練の参加により、生徒の自助・共助意識の涵養を図り、地域の高校としての価値を高める。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	**個に応じた丁寧な進路指導**	基礎学力の定着とさらなる発展を目指し、校内研修や授業アンケートを実施し、授業改善を図る。	基礎学力テストを年３回実施した。	B	基礎学力向上は学校全体の課題と捉え、検討機会を増やし、教員の意識も高める。
		基礎学力の向上を図りつつ、適切な時期に面接や作文の指導を行い、進路決定率 100%を目指す。	生徒全員の進路が決定した。指導では面接、作文は適切にできたが、基礎学力向上の課題が残る。	B	生徒が望む進路先に進路決定率 100%を目指し指導を行う。 生徒に基礎学力向上の必要性を理解させ、学力向上の取組みを早くから実施する。
		年度末までに 90%以上の生徒が進路希望を明確にする。大学入試改革に伴う積極的な情報提供を行う。	90%以上の生徒が進路希望を明確にした。	A	進路に対する意識の向上が見られた。次年度、本格化する指導に繋げる。
		年度末までに 60%の生徒が進路目標を明確にする。 大学入試改革に伴い、積極的な情報提供を行う。	18 名中 11 名の生徒が具体的な進路目標を描くことができたが、目標が現実的でない生徒の存在と十分な情報提供ができなかった課題が残る。	B	より現実的な目標の実現に向けた指導をする。目標が定まっていない生徒たちには情報提供し、目標の明確化に繋げる。
		学期ごとの面談を通じて生徒情報を把握し、教員間で情報を共有する。放課後等に個別教科指導やテストを実施し、基礎学力の定着を図る。	こまめな面談及び必要な時の話し合いにより生徒情報を把握し、教員間で情報共有や連携ができた。 個別指導を実施したが、“機会”の点では、学年間でやや差が見られた。	B	今後もこまめな面談や個別指導により、情報を収集し、教員間で生徒情報を共有することを継続する。 進学・就職とも、学力不足が不合格の原因と思われる生徒がいた。授業や家庭等日頃の学習習慣と基礎学力の大切さを１、２年生に伝えることに努める。
		下田法人会、地元企業等と連携し、インターンシップ、職場見学を充実させる。	地元企業の協力を得て、有意義なインターンシップ、職場見学を行うことができた。	A	進路を見据えてインターンシップや職場見学に臨めるように、継続指導に努める。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	教育活動の地域への積極的情報発信	分校だよりを月１回発行する。	計画通り毎月発行できた。	A	掲載内容をさらに充実させる。
		ホームページの更新年間 40 回を目指す。	ホームページを年間 44 回更新した。	A	今後も生徒の活動をより多く取り上げ更新に努める。
		生徒の研究発表等を地域に公開する。	今年度年２回南伊豆役場内で発表会を開催できた。	A	継続実施することで、南伊豆分校の存在をアピールする。発表会の集客数を増やす魅力ある広報に努める。

様式第３号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
キ	学校の組織力を高めると共に、教職員の資質能力向上の推進	分掌業務の遂行により学校運営に積極的に関わる。	分掌業務の積極的遂行は勿論、組織としての運営手段の改善ができた。	A	管理職主導ではなく、分掌主任主体に職員間の情報共有を積極的に行い、スムーズな運営を目指す。
		年次研修以外の希望研修等の受講７割以上を目指す。	研修内容や会場を考慮し、学校で実施する研修への参加を促がせた。	A	希望研修は旅費問題もあり、一層の精査は必要だが、資質向上に繋がる研修参加は、前年度の反省を生かし今後も勧める。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ク	働き方の見直しを図り、働きやすい職場の構築	長期休業を含め年休３日以上、８割の取得を目指す。	促進日の休暇取得は目標通りではなかったが、全体を通じ取得状況は良かったと判断している。	A	働き方改革が示される中、休暇取得だけがこれにあたるものではないが、現状では“形として”実現できるものとし、今後も積極的取得促進に努める。
		教職員への積極的な話題提供を毎月２回行なう。	声掛けは意識したが、目標達成はできなかった。	B	他職員からの話題提供など、手段・手法の工夫に努める。
		前年度からの継続要望及び、新規改善要望実現５件を目指す。	検討会を１回実施し、要望を５件実現できた。	A	今年度実現できなかったものは、現在進行中も含め、次年度への継続実現を目指す。
	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ケ	教育目標達成のための適切な財務執行	会計の迅速執行のため、事務と教師間の連携を深める。	予算の要望を取り、執行を行った。執行にあたり教師間連携に努めていたことが伺えた。	A	要望を取り執行を行ったが、執行率が低くかった。教師への声掛けを増やし、連携を深めることに努める。
		経営予算の12月末までの執行率を 60%以上、小規模修繕費の12月末までの執行率を 60%以上とする。	経営予算の執行率 59%、小規模修繕費の執行率 34%であった。全般には、予算執行は昨年の反省を生かし実施できていた。	B	目標達成できなかった小規模修繕費は早期執行に努め、事務と教師間の連携を深め、執行時期を明確化することに努める。